

出席者：浮谷秀一理事長、中村真副理事長、家島明彦、小塩真司、松田英子、松田浩平、山崎晴美、渡邊芳之事務局：加藤司事務局長、太幡直也幹事

欠席者：二宮克美

日本パーソナリティ心理学会第107回常任理事会

報告事項

I 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

(1) 「パーソナリティ研究」の編集発行状況について

1) 「パーソナリティ研究」第21巻第2号の発行状況について

第21巻第2号掲載論文は以下の12本（原著4，資料3，ショートレポート5）である。

掲載番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
21-2-1	原著	高校生の自己分化度がネガティブライフイベントの嫌悪度に及ぼす影響	工藤浩二	2011/1/4	2012/4/2
21-2-2	原著	目標志向性が学業的援助要請、ピア・モデリングに及ぼす影響	岡田涼	2011/9/12	2012/4/15
21-2-3	原著	認知方略の違いが対人関係における動機、目標志向性および対人行動との関係に及ぼす影響	光浪 睦美	2010/1/20	2012/6/4
21-2-4	原著	大学生における動機づけ調整方略	梅本貴豊	2011/2/4	2012/7/10
21-2-5	資料	友人関係における動機づけが対人葛藤時の対処方略に及ぼす影響	本田周二	2011/3/13	2012/3/29
21-2-6	資料	装いの枠組みによる瘦身の心理的機能と効用についての確認—体型結果予期の分類および瘦身願望との関連	鈴木公啓	2010/6/22	2012/5/28
21-2-7	資料	アタッチメントの内的作業モデルと仮想的 有能感の関連	島義弘	2009/11/20	2012/7/10
21-2-8	ショートレポート	日本人のゆるし (forgiveness) と文化価値関連概念との関係性	上田光世	2010/7/3	2012/3/21
21-2-9	ショートレポート	学校生活の諸領域に対する適応と重要度認知の因果関係—交差遅延効果モデルによる検討	岡田有司	2011/10/2	2012/3/29
21-2-10	ショートレポート	自己価値の随伴性と累積的な達成度が動機づけに及ぼす交互作用	大谷和夫	2011/9/12	2012/3/29
21-2-11	ショートレポート	ストレス負荷後の記憶に及ぼす不安の効果	林明明	2011/11/24	2012/4/2
21-2-12	ショートレポート	Cloningerのパーソナリティ次元とIQ—遺伝要因と環境要因の重なりから—	敷島 千鶴	2011/10/28	2012/6/7

2) 「パーソナリティ研究」第21巻第3号の編集状況について

第21巻第3号は来年3月の発行を予定している。掲載論文は以下の13本（原著6，資料2，ショートレポート5）である。

掲載番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
21-3-1	原著	レパトリ-グリッド法を適用してとらえた社会不安の特徴	阿部 ひと美	2011/3/30	2012/7/22
21-3-2	原著	青年女子のダイエットにおける完全主義的自己陳述尺度の作成と信頼性、妥当性の検討	矢澤美香子	2010/4/23	2012/7/31
21-3-3	原著	大学入試に対する認知的評価とストレス対処が情動知能の成長感に及ぼす効果	野崎優樹	2012/4/9	2012/9/4
21-3-4	原著	ナラティブとしての女性の化粧行為～対話的場所と宛先	木戸彩恵	2010/11/1	2012/9/7
21-3-5	原著	中学生の学業領域における自己価値の随伴性が動機づけおよび学業達成に及ぼす影響プロセス	大谷 和夫	2010/8/16	2012/9/21
21-3-6	原著	集中的気晴らしに関するメタ認知的信念と抑うつとの関係に関する検討	服部陽介	2011/11/12	2012/10/26
21-3-7	資料	中学校教師におけるバーンアウト尺度の因子構造の検討	森 慶輔	2011/5/13	2012/11/5
21-3-8	資料	平均的な学業水準との比較による学業的自己概念の形成—学業水準の高い高校に所属する生徒に焦点を当てて—	鈴木 雅之	2012/7/6	2012/11/5
21-3-9	ショートレポート	刺激希求と親や仲間の飲酒行動が青年期の飲酒行動に与える影響	柴田 由己	2012/3/29	2012/8/9
21-3-10	ショートレポート	対人ストレス尺度作成の試み	高橋幸子	2011/8/1	2012/8/20
21-3-11	ショートレポート	熟語への潜在的選好の変容に関する研究—顕在的指標との関連も含めて—	藤井 勉	2012/4/22	2012/9/21
21-3-12	ショートレポート	インターネット版プライバシー次元尺度の作成	佐藤 広英	2012/8/9	2012/10/26
21-3-13	ショートレポート	大学生の対人ストレス場面における気晴らしの問題解決促進過程—気晴らし頻度、反すう、活動選択の知識の影響に着目した検討—	及川恵	2012/3/13	2012/11/1

3) 「パーソナリティ研究」第22巻第1号の編集状況について

12月12日までに以下の5本の論文(原著2, ショートレポート3)が採択となっている。修正採択修正中が8本ある。

番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
S-226	ショートレポート	日本語版セッション評価尺度(The Japanese Session Evaluation Questionnaire: J-SEQ)作成の試み——カウンセラー評定による検討	桂川 泰典	2012/5/28	2012/11/9
A-296	原著	学業場面における誘惑対処方略尺度の作成	小林麻衣	2011/12/18	2012/11/16
S-230	ショートレポート	エフォートフル・コントロールは検索誘導性忘却を予測する	小林正法	2012/7/31	2012/11/27
S-225	ショートレポート	日常生活の中で生じるフォーカシング・プロセスによる感情制御と人生満足度との関連:感情プロセス認識尺度第2版による検討	酒井久実代	2012/4/22	2012/11/27
A-289	原著	中高年期における感情調整の発達に関する横断的研究—年齢, 身体機能, 感情調整, 精神的健康の関心に注目して—	中川威	2011/9/12	2012/11/27

(2) 投稿状況, 審査状況について

1) 投稿状況について

今年1月からの投稿状況は下表の通りである。

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計	備考
2012	1	0	1	0	0	1	
	2	4	0	0	0	4	
	3	2	1	4	0	7	
	4	4	1	4	0	9	
	5	0	0	2	0	2	
	6	1	0	1	0	2	
	7	3	3	2	0	8	
	8	2	0	1	0	3	
	9	0	2	0	0	2	
	10	1	1	2	0	4	
	11	1	3	1	0	5	
	12	1	0	1	0	2	12月12日
合計		19	12	18	0	49	

2) 審査状況について

同じく今年1月からの審査状況は以下の通りである。

年月	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下	備考
2012/1	4	7	1	1	
2	2	8	1	1	
3	4	5	1	0	
4	3	3	5	2	
5	1	4	0	0	
6	2	10	4	1	
7	4	8	5	0	
8	2	7	1	0	
9	3	5	0	1	
10	2	15	1	0	
11	8	9	3	0	
12	0	2	0	1	12月12日
合計	35	83	22	7	

(3) その他

1) 投稿論文種別の変更について

現在の投稿論文種別は「原著」「資料」「ショートレポート」「展望」「討論」の5種類となっている。編集委員

長としては「原著」「ショートレポート」の2種類に整理し、従来の「資料」「展望」は「原著」として審査することが提案された。審査の枠組みは原著とショートレポートとし、掲載に関しては原著（資料）、原著（展望）というような形とし、編集審査委員会で原案を作成し、次回常任理事会で報告することにする。

2) 編集幹事の任命について

編集事務局の業務を行う「編集幹事」の任命について、4月から実際に作業を依頼する旨報告され、承認された。週2時間、月8時間で、年間10万円程度を予定している。

2 経常的研究交流委員会（加藤事務局長代理）

(1) 大会開催時以外の講演会などの企画

演者：ノンフィクションライター 川端裕人氏

演題：PTA 再活用論（仮題）

日時：平成25年2月23日（土）午後を予定

場所：青山学院女子短期大学

3 広報委員会（家島委員長）

(1) 委員構成

～2013 大会まで	～2014 大会まで	～2015 大会まで
浅野良輔*（名古屋大学）	長谷川由加子（上智大学）	古村健太郎（筑波大学）
落合萌子（筑波大学）	薊理津子（聖心女子大学）	大谷和大（大阪大学）
竹内一真（京都大学）	梅本貴豊（名古屋大学）	蔵永瞳（広島大学）
	浦田悠（立命館大学）	徳永侑子（岡山大学）
★★委員長&担当理事	*副委員長	家島明彦（島根大学）★★

承認された。

(2) 大会企画案

「統計学のトピックについて」を予定している

4 国際交流委員会（小塩委員長）

(1) 第22回大会 招聘候補者

Filip de Fruyt, PhD

所属：Department of Developmental, Personality and Social Psychology, Ghent University, Belgium

予算を多くて30万を予定している。

(2) 委員構成

委員長：小塩真司（早稲田大学）

委員：高橋雄介（京都大学）、田中麻未（千葉大学）、向田久美子（駒沢女子短期大学）、守谷順（日本学術振興会・ゲント大学）

以上、承認された。

5 学会活性化委員会（松田英子委員長）

(1) メンバー構成

委員長：松田英子（江戸川大学）

委員：堀毛一也（東洋大学）、森津太子（放送大学）、内藤まゆみ（高崎経済大学）、中村真（江戸川大学）、橋本空（江戸川大学：大会主催校推薦）

以上、承認された。

(2) 大会活性化企画

1) 初めての学会発表をする人向けの特典（発表費の減額など）を検討中

2) 「パーソナリティ心理学の基礎教育」に関する中堅の先生方の授業を、高校生と若手会員にみてもらい、今後講義を担当する際の参考にする。

6 各種電子化検討小委員会（松田浩平委員長）

特になし。

II 日本心理学諸学会連合（浮谷理事長）

来週に開催されることが報告された。

心理学検定委員として、堀毛一也を推薦することになった。

III 第22回大会準備状況について（松田英子大会委員長）

(1) 学会の開設の詳細

名称：日本パーソナリティ心理学会第22回大会

会期：2013年10月12日(土)－13日(日)

会場：江戸川大学 駒木キャンパス

270-0198 千葉県流山市駒木474

連絡先：日本パーソナリティ心理学会第22回大会準備委員会事務局

(株)フィスメック内

101-0047 東京都千代田区内神田2-12-6内神田OSビル7F

Tel : 03-3255-3698 Fax : 03-3255-3397

E-mail : jspp22@edogawa-u.ac.jp

URL : <http://www.edogawa-u.ac.jp/~jspp22/>

(2) 大会準備委員会企画講演

1) 臨床心理士資格更新研修会／江戸川大学睡眠研究所共催

テーマ：睡眠障害の理解と心理支援

基調講演：「睡眠障害と精神疾患」

高橋 清久（国立精神・神経医療研究センター名誉総長）

パネリスト：「各種精神疾患に対する心理支援（事例）」

福田一彦「家庭内暴力－睡眠スケジュール法、痴呆－光療法」（江戸川大学）

松田英子「不眠症－認知行動療法、悪夢－認知行動療法」（江戸川大学）

2) 一般公開講座／江戸川大学サテライトセンター共催

太田次郎先生（元お茶の水女子大学学長・生物学者）「生命科学の進歩と人間の未来」

安藤寿康氏（慶應義塾大学）「遺伝的個人差と教育—進化的視点から」

司会：田中麻未氏（千葉大学）

IV 事務局報告（加藤事務局長）

あて先不明の問い合わせが報告された。

V 「パーソナリティ心理学ハンドブック」について（代理：加藤事務局長）

2月上旬にすべて終了し、3月中に発行という段取りである。

VI 20周年記念出版について（浮谷理事長）

小委員会に格上げして、佐藤達哉（立命館大学）を委員長とすることが提案され、承認された。

VII その他

1 第21回大会報告（家島大会委員長）

主要な事柄について報告がなされた。

2 2013年度予算について（山崎財務担当常任理事）

2013年度予算（モデル）が提案された。

審議事項

1 選挙規程に関する件（浮谷理事長）

理事長から、これまでの経緯の説明がなされた。選挙規程検討小委員会を設置し、中村副理事長を委員長とすることが提案され、承認された。

2 第106回常任理事会議事録承認に関する件（加藤事務局長）

追認された。

3 新入会員に関する件（加藤事務局長）

(1) MLで承認済み

追認された。

(2) 新規希望者

院生会員1名が承認された。

(3) 会員報告

以上、新入会希望者（ML就任済み）の承認を受けて、12月13日現在、会員総数は895名である（一般会員595名、院生会員285名、学生会員6名、名誉会員8名、賛助会員1名）。

4 ICP2016 プログラム委員推薦の件（加藤事務局長）

小塩常任理事を推薦することにした。小塩より推薦されたものは追認することに決定した。

5 その他

特になし。

次回常任理事会は3月9日14:00から、国際文献社に開催予定である。